



地域内交通「くるくる号」が 田尻地域でスタート!



地域内交通とは、地域内を走る生活路線のことです。現在、市内各地域で市民の大切な「足」を維持するため、地域が主体となって運営し、市が支援する新たなシステムづくりに向けて協議が進められています。田尻地域では、ほかの地域に先がけ、乗り合いタクシー「くるくる号」の運行が始まりました。

まちづくり推進課 ☎ 23-5069
田尻公共交通運営委員会（田尻総合支所総務課内） ☎ 39-1111

乗り合いタクシー「くるくる号」

これまで田尻地域では、市が「思いやりバス」を運行してきましたが、幼稚園バスの送迎の空き時間を利用していたため、運行本数が少なく利用者が減少傾向にあり、運行の維持が難しくなっていました。そこで、地域の足を守るため、新しい交通システムとして始まったのが「くるくる号」です。

くるくる号は、定期的に運行されるバスとは違い、自宅まで迎えに来て、田尻地域の病院や公共施設などの定められた目的地まで送り届ける乗り合いタクシーです。自分が利用したいときに利用することができ、予約制にすることで、バスと違って経費を削減することができます。

利用者と運行する事業者の利点が一致する理想の交通形態として、十月三日から運行が始まりました。

利用する前に会員登録

くるくる号は、田尻地域に住んでいる人であれば、誰でも利用できます。申し込み後、一週間ほどで自宅に会員証が届き、それから予約して利用することができます。

利用方法

予約センター（☎990083）に午前八時三十分から午後五時までの間に電話で予約します。予約した日

にタクシーが自宅に迎えに来て、同じ時間に予約した人と一緒に乗り合わせて目的地へ向かいます。

運賃

片道一人一回四百円です。

利用できる日と時間

月曜日から金曜日の午前八時から午後四時まで、一時間ごとに運行します。

地域内交通の今後

利用者が便利に感じられる交通システムを作るためには、市や地域の皆さんが一体となって話し合うことが必要です。現在、各地域で地域内交通の協議が進められています。田尻地域のくるくる号をよい事例として、みんなで地域内交通の今後を考えていきます。

★利用者の声



田尻地域大貴地区
富田とみ子さん

歳をとって足腰が弱っているもので、今まではタクシーで通院していましたが、片道2,000円以上かかっていましたが、片道400円で利用できるくるくる号が運行して助かっています。

平成23年 大崎市表彰式・ 大崎市震災復興大会

大崎市の発展に尽くされた皆さんを表彰する「平成二十三年大崎市表彰式」を開催します。また、今年は式典に併せて「大崎市震災復興大会」を開催します。震災復興大会では、東日本大震災の教訓を生かし、大規模災害が起きたときに自治体間で物資や人材で支援し合えるように「自治体間災害時相互応援協定」を締結します。

また、私たちに元気をくれたスポーツ選手の皆さんからも、復興へ向けたメッセージをいただきます。

どなたでも参加できますので、ぜひご来場ください。

- ◆日時 十一月三日(休) 午前九時三十分
- ◆場所 大崎市民会館
- ◆政策課 ☎22129

大崎市表彰式・大崎市震災復興大会の主な内容

- ・表彰
- ・自治体間災害時相互応援協定調印
※北海道当別町、愛媛県宇和島市、兵庫県豊岡市、栃木県小山市、秋田県湯沢市、山形県遊佐町、山形県最上町、山形県尾花沢市と協定を結び予定
- ・高倉薬太鼓の演奏
- ・元気をくれたスポーツマンからのメッセージ
古川工業高校野球部（夏の甲子園大会に出場）、古川学園高校女子バレーボール部（インターハイ・国体準優勝）、藤岡奈穂子選手（ボクシングWBC女子世界ミニフライ級チャンピオン）
- ・復興作文朗読（小中学生）
- ・復興宣言（高校生）

※内容は変更になる場合があります。



①大崎地域念願の甲子園出場を果たした古川工業高校野球部②高倉薬太鼓

市長コラム 天・地・人



森の豊かさを未来につなぐ

九月二十三日、JR東日本との共催で「ふるさとの森づくり」を開催し、参加した五百人の皆さんと水源

地鬼首に一千二百本の苗木を植林しました。十月二十三日には、農林水産省などの共催で「市民と森林をつなぐ国際森林年の集いinおおさき」を、国際森林年子ども大使ミュージカル葉っぱのフレディや皆川林野庁長官などをゲストに迎えて開催されました。

今年、国連が定めた「国際森林年」。森は木材の生産のみならず、命の源の水を蓄え、生物を育み、環境を守ってくれます。その公益機能の評価額は年間七十五兆円とも言われ、国民一人当たり約六十万円分の恩恵を森から受けていることになりました。

地球上でかつて存在していた森の四十七パーセントが既に失われており、森林破壊が進めば生物の多様性

は失われ、環境保全機能も低下します。地域規模での取り組みが急を要します。

大崎市の市民憲章の前文に「恵みの森、奥羽山脈から湧き出る水は、大地を潤し文化の花をさかします」とうたわれているように、本市総面積の五十四パーセントを占める豊かな森、里山は大崎市の宝です。湧き出る水を水源にしている水道水は、日本テレビの企画番組の中で、日本一おいしい水道水に輝きました。また、日本に生存する生物の八割は森に生息しており「渡り鳥に選ばれた大崎」につながります。再生可能エネルギーの新たな資源、木質バイオマスエネルギーや地熱エネルギー、水力エネルギーの宝庫でもあります。

そんな想いで市民と森をつなぐ取り組みが動き出しました。森の恵みを次代に残そう!

大崎市長 伊藤 康志